

# 川上ダム通信

定礎式  
特別号

独立行政法人水資源機構 川上ダム建設所

〒518-0294 三重県伊賀市阿保 251 番地 TEL: 0595-52-1661 (代)

川上ダム通信は川上ダムホームページでもご覧いただけます。

<https://www.water.go.jp/kansai/kawakami> 又は「川上ダム通信」で検索  
(右の QR コードを読み取っていただくと川上ダムホームページへ移行します。)

ご意見・ご感想はこちらへ <mailto:somu1@lily.ocn.ne.jp>



Vol. 173

Since 2005

永久堅固と安泰を祈願

## 川上ダム定礎式を開催！

令和元年12月15日(日)、ダムサイトにおいて「川上ダム定礎式」を挙行了しました。これは、ダム堤体の築造が最盛期を迎えるにあたり、ダム建設事業にご協力をいただいている関係者の皆さまをお招きして感謝の意を表すとともに、川上ダムの永久堅固と安泰を祈願するため、独立行政法人水資源機構が開催したものです。

定礎式は、地元川上区の皆さまを始め先祖代々の大切な土地をお譲りいただいた皆さまおよび地域住民代表の皆さま、国会議員、三重県議会議員、伊賀市議会議員、国土交通省、厚生労働省、三重県、関係府県、伊賀市等の関係機関、伊賀川漁業協同組合、ダム本体建設工事施工者、当機構職員等約300名が参加して行われました。

### 式次第

| 式典        | 定礎行事   |
|-----------|--------|
| 一、開式の辞    | 一、礎石搬入 |
| 一、主催者挨拶   | 一、鎮定の儀 |
| 一、事業経過報告  | 一、斎鍔の儀 |
| 一、来賓挨拶    | 一、斎槌の儀 |
| 一、移転者代表挨拶 | 一、埋納の儀 |
| 一、来賓紹介    | 万歳三唱   |
|           | くす玉開披  |
|           | 一、閉式の辞 |



くす玉が割れ「祝川上ダム定礎」の垂れ幕が披露されるようす

式では、主催者挨拶、事業経過報告に続き、来賓の皆さまからご挨拶を頂戴しました。以下、その要旨について紹介いたします。

## 主催者挨拶

事業にご協力いただいている地権者の皆さま、伊賀市および関係者の皆さまに改めて御礼申し上げます。環境の保全に十分配慮しながら丁寧な施工を心がけ、情報通信技術を活かし、高品質で効率的な施工に努めます。



主催者挨拶をする  
金尾理事長

## 事業経過報告

昭和42年に予備調査が開始された川上ダムが、関係する皆さまの長年にわたるご協力により堤体コンクリート打設の段階まで進めることができました。安全や環境に十分配慮し、令和4年度の完成に向けて事業を進めてまいります。ダム完成後は、地域の皆さまにご活用いただき、誇りに思っていただけの資産となるよう、魅力あるダムづくりを進めてまいります。



事業経過報告をする  
澗上所長

## 来賓挨拶



和国土交通大臣政務官

木津川上流域の治水対策は、平成27年に運用開始した上野遊水地および河川改修の対策と相まって、川上ダムを整備することで洪水被害が軽減される。また、川上ダムの完成により、伊賀市の安定した水道水の確保などが待ち望まれている。ダムを地域資源のひとつと捉え、地域活性化に寄与するものと期待している。



川崎衆議院議員

川上ダム建設事業は長い年月がかかっていたが、やっとここまで来た。各地で大きな災害が起こる中、地域の安心・安全のため、また命の水である水道水の確保のため、ダムに強く期待する。



中川衆議院議員

近年のダム運用に関する見直しは正しいことと考えている。川上ダムでも自然エネルギーによる発電等、地元にも利益をもたらすことも考えていただきたい。ダムの完成を待ちたい。



足立参議院議員

実施調査計画段階より川上ダムに携わってきた。令和元年の水害により、ダムの効果が改めて見直された。一日も早くダムを完成させていただきたい。



渡邊三重県副知事

上野遊水地、木津川の河川改修、川上ダムは治水の3点セットである。伊賀地域の住民にとって、川上ダムの完成は待ち望まれている。一日も早いダム完成に向けて、三重県としても取り組みたい。



中嶋三重県議会議長

三重県議会で、川上ダムの早期完成が待ち望まれている。地域住民の安全安心のため、また、地域振興のため、引き続き川上ダム建設事業を支援していく。



岡本伊賀市長

先祖伝来の土地を提供いただいた住民の皆さまに感謝する。伊賀市の治水のため、上野遊水地、木津川の河川改修、川上ダムは重要である。また、地域活性化のため、上野遊水地や市の施設とダムをつなぐ観光ルート化を期待する。事故無く安全にダムが完成することを望む。

# 人生の大半を共に歩んだダムへの想い

～五十年を振り返って～

移転者を代表して川上ダム対策委員会協議会の古川喜道代表（92）が挨拶を述べられました。

昭和43年5月、新聞紙上で川上ダム建設の発表を受け「住民は連日連夜、明けても暮れても集会ばかりで一向に結論の出ない話し合いのなか、住民同士でも意見の対立が続いた」「住民は将来への不安を抱え混乱するばかりで長い年月が過ぎていきました」が、「協議会の設立は、我々水没住民の中にこれ以上の混乱を次の若い世代に先送りすることはできないと、知らず知らずのうちに住民一人一人の個々の思いが一つになったからではないか」とダム計画からの思いの変遷を紹介されました。



移転者を代表して挨拶される古川代表

その上で「こうして五十年を振り返ると、私も随分歳を重ねた。その間、先立たれた多くの先輩方に対しても堂々と胸を張っていけるよう、水資源機構には立派なダムを完成させてほしいと願っている」というお言葉をいただきました。

混乱する地元をまとめ、長きにわたりダム事業に携わった自身の人生を振り返るように語られた言葉に、会場の皆さまも目頭が熱くなられた方が多くいらしたのではないかと思います。そういったお気持ちに少しでも寄り添い、立派なダムを完成させなければならないと改めて強く受け止めました。 【用地課 桐山竜二】

## 事業の経過(進捗状況)

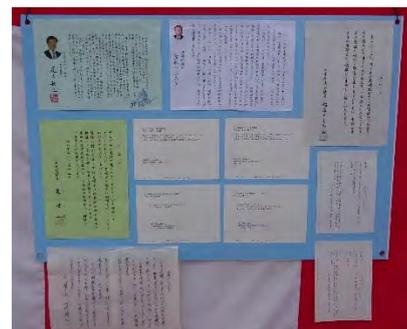
|           |                        |           |                         |
|-----------|------------------------|-----------|-------------------------|
| 昭和42年     | 予備調査に着手（建設省）           | 平成29年 9月  | 本体建設工事を契約               |
| 昭和56年     | 実施計画調査開始（建設省）          | 平成29年 11月 | 付替県道青山美杉線 供用開始          |
| 昭和57年 8月  | 水資源開発公団が事業を継承          | 平成30年 4月  | 仮排水路トンネル転流開始            |
| 平成 8年 12月 | 一般補償基準の妥結<br>（ダムサイト上流） | 平成30年 9月  | 本体建設工事 起工式<br>本体基礎掘削に着手 |
| 平成 9年 12月 | 一般補償基準の妥結<br>（ダムサイト下流） | 平成31年 3月  | 本体基礎掘削を完了               |
| 平成16年 3月  | 川上ダム建設事業に伴う離村式         | 令和 元年 7月  | 減勢工コンクリート打設開始           |
| 平成20年 11月 | 付替県道松阪青山線 供用開始         | 令和 元年 9月  | 堤体コンクリート打設開始            |

## 祝電・メッセージ披露

多くの皆さまから祝電・メッセージをいただきました。  
誌面の関係でお名前のみご紹介させていただきます。



参議院議員 芝 博様、参議院議員 佐藤信秋様  
三重県議会議員 稲森稔尚様、元伊賀市長 内保博仁様  
一般財団法人日本ダム協会会長 宮本洋一様  
ダム工事総括管理技術者会会長 藤田 司様  
株式会社大林組 代表取締役社長 蓮輪賢治様 ほか



会場で披露させていただきました

# 定礎式 式典行事



## オープニング～青山太鼓演奏～

オープニングセレモニーとして、「青山太鼓保存会」の皆さまによる太鼓の演奏が披露されました。「青山太鼓保存会」は、地域活性化を目的として地元青山地区で設立された団体です。小学生から大人まで幅広いメンバーで活動されています。圧巻のパフォーマンスで定礎式のオープニングを飾っていただきました。



太鼓演奏のようす

## 定礎行事

### 1. 礎石搬入

当建設所職員およびダム本体建設工事施工者が協同して、国産黒御影石(浮金石<sup>うきがねいし</sup>)を使用した約110kgの定礎石を、ダムの堤体内に納める儀式を行いました。木遣り歌に合わせて「よいしょ、よいしょ」の掛け声とともに入場し、無事にダム堤体内に納めることができました。



定礎石を担いで入場



定礎石を設置

### 2. 鎮定(ちんてい)の儀



搬入された礎石の周りにモルタルを入れて礎石の基礎を固めるもので、工事を進める道筋をつけるという意味が込められています。

### 3. 齋鏝(いみごて)の儀



鎮定の儀で入れたモルタルを鏝で均して固めるものです。鎮定の儀によりつけられた道を均すという意味が込められています。

### 4. 齋槌(いみつち)の儀



礎石の四隅を木槌でたたき締め固めます。齋鏝の儀によって均された道をより強固なものにするという意味が込められています。

### ■定礎行事にご協力いただいた皆さま■

#### 【鎮定の儀】

国土交通大臣政務官 和田政宗様  
三重県副知事 渡邊信一郎様  
伊賀市長 岡本 栄様  
水資源機構理事長 金尾健司

#### 【齋鏝の儀】

衆議院議員 川崎二郎様  
衆議院議員 中川正春様  
参議院議員 足立敏之様  
国土交通省水管理・国土保全局長 五道仁実様  
水資源機構関西・吉野川支社長 北牧正之

#### 【齋槌の儀】

三重県議会議長 中嶋年規様  
伊賀市議会議長 中谷一彦様  
国土交通省近畿地方整備局長 井上智夫様  
川上ダム対策委員会協議会代表代理 東 幹芳様  
水資源機構川上ダム建設所長 洲上吾郎

## 5. 埋納(まいのう)の儀

鎮定した礎石をコンクリートで埋納するのに先立ち、伊賀市立青山小学校放課後児童クラブのお子さまが願いを書き込んだメモリアルストーンを礎石の周りに並べました。



メモリアルストーンを持ち記念撮影

その後、自動運転のタワークレーンにより、コンクリートが入ったバケットが運ばれ、礎石の上にコンクリートが投入されました。無人の締固め機械(バイバック)によりコンクリートが締固められ、礎石が埋納されました。



願いが書かれたメモリアルストーン

## 6. くす玉開披

埋納完了に合わせて、工事の安全とダムの早期完成を祈念して来場者全員による万歳三唱を行い、来賓代表の皆さまと放課後児童クラブのお子さまによる「くす玉開披」で締めくくりました。(写真は1面を参照)

### 定礎石に関する豆知識

川上ダムの定礎式で使用した定礎石に関する豆知識を紹介します。

#### 定礎石は土台！

定礎石は礎石とも呼ばれ、もともとは建物の土台となって柱を支える石のことをさしていました。現在ではものごとの土台や基礎という意味でも使われます。

ダム建設ではある程度コンクリートの打設が進んだところで定礎式を行い、式典で埋納した定礎石はダムの堅固な土台の一部になります。

定礎石の揮毫は、古くから川上区を見守り、集団移転地に移転された大圓寺のご住職福井正明様にお願ひしました。素晴らしい「定礎」の揮毫、ありがとうございました。

力強く刻まれた「定礎」の文字もダムの堅固な土台の一部となり、工事期間中の安全と完成後のダムと地域とのつながりを守り続けることでしょう。



大圓寺ご住職による「定礎」の揮毫



定礎石に刻まれた「定礎」の文字



### 式典に華を添えていただきました



式典の司会を務めていただきましたのは、地元三重県伊賀市ご出身のフリーアナウンサー 向ますみ様です。

12月の寒空の下、素晴らしい進行ありがとうございました。

# 安全祈願祭



定礎式開催前に、川上ダム建設所監督職員と川上ダム本体建設工事を受注している大林・佐藤・日本国土JV関係者で安全祈願祭を執り行いました。地元大村神社の金山宮司をお招きして、今後の工事の安全とダムの永久堅固と安泰を祈願いたしました。堤体、ダム敷だけではなく、埋納する定礎石も合わせてお祓いしていただきました。



清祓（きよはら）いの儀  
（土地全体をおはらい）



お祓いしていただいた定礎石



約70名が参列するようす

## 自動運転大活躍！



埋納の儀で、コンクリートを入れたバケットを運搬したタワークレーンとコンクリートの締固めを行った機械（バイバック）は無人で運転しています。これらは大林組のダム情報化施工技術「ODICT™」（オーディクト）に集約された技術で、川上ダム本体建設工事で実用化されております。

タワークレーンの無人運転は、打設位置（運搬先）を指示するとタワークレーンがコンクリートを自動で運搬するシステムを用いています。

無人のバイバックは、ダムコンクリート締固め振動分析で最適に判定するシステムを用いており、コンクリートの締固め完了を自動で判定します。

「ODICT™」を駆使して建設業における労働力不足の解消などの課題解決に貢献していきます。



無人のタワークレーンが  
定礎石を埋納するようす



無人のバイバックが締固めするようす

## 施工者挨拶



12月15日に定礎式を無事終えることができました。施工会社代表として関係者の皆さまに厚く御礼申し上げます。ありがとうございました。

ダム工事の定礎式は、お祓いをした礎石をダムの中に埋納し、ダムの一部として永遠の堅牢と繁栄を祈願するものです。長い工事期間のなかで最大の式典となりますが、我々ダム技術者もなかなか立ち会えるものではありません。定礎式に立ち会えたことに深く感謝し、今後も安全にいいダムを造ることを誓った次第です。

今後も自動化や無人化、省力化を目指した技術開発を進め、安全に早く川上ダムが機能を発揮できるよう水資源機構様と一体となって工事を進めてまいります。今後ともよろしく願いいたします。



【川上ダムJV工事事務所所長 上高克弘】

# 機構職員による定礎式の裏話



## 事務所敷地内に原寸大模擬会場をつかって入念に練習しました！

式典をスムーズに進めるため、事務所敷地内に原寸大模擬会場を作り、リハーサルのリハーサル、略して『リハリハ』を行いました。

定礎式は初めてという職員が多い中、『リハリハ』により式典の流れを把握したうえで前日のリハーサルに臨みました。



事務所内に再現した原寸大模擬会場



一つ一つの動作を確認しました

二日間に渡り『リハリハ』及びリハーサルを繰り返したことで、定礎式本番は滞りなく進行することができました。

【副所長（事務） 大竹敏博】

## いかに252席へ皆様をスムーズにご案内ができるか！ ～座席案内班16名の命題～

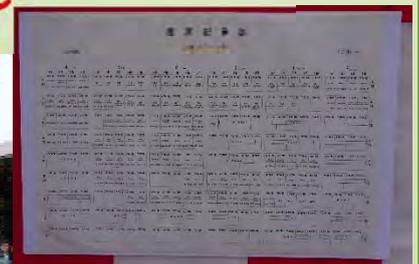
定礎式本番に向けて、座席案内班全員で複数回打合せを行い、ご招待した皆さま全員に口頭で座席番号をお伝えするのが難しいと判断し、会場入口に掲示した芳名五十音順による座席番号を案内する班とテント内の座席へ誘導する班の2班構成によりスムーズにご案内できたと思っています。

また、座席案内の他にも備品移動など追加依頼の連絡が入りましたが、座席案内班がワンチームとなって連携し対応をさせていただきました。ご列席の皆さまには十分ではなかったかもしれませんが、皆さまのご協力に心から感謝いたします。

【事業調整役 山口和宏】



252名の案内を行いました



案内板の一部

## 定礎石のレプリカ、展示しています！！



情報館で展示しているレプリカ

式典で使用した定礎石と同じレプリカを作成しており、「WEL  
COME川上ダム<sup>みでずこーだい</sup>観眺台」内にある情報館で展示しています。ぜひ見に来てくださいね！

★情報館の開館時間

日曜及び祝日の8：30～16：30（年末年始休暇は除く）

【工務課 山田 聖】

# ダムカード (Ver. 2.0) 配布開始



川上ダムカード (Ver. 2.0)

この度、川上ダム定礎を期に、ダムカードのバージョンアップ (Ver. 1.0→2.0) を行いました。前バージョンのCGにも増して、より完成形に近いイメージに仕上げています！また、本バージョンからはAR動画も導入していますので、下記の方法で動画も楽しんでください。



## ☆配布場所☆

◇川上ダム建設所 受付 (伊賀市阿保251)

【日時】 9:00~17:00 (土・日・祝日、12/29~1/3を除く)

◇青山ハーモニー・フォレスト (伊賀市種生3137-1)

【日時】 9:00~17:00 (月曜 (月曜が祝日の場合はその翌日)、12/29~1/3を除く)

## AR動画の視聴方法



COCOAR2

- ① 左のQRコードから「COCOAR2」のアプリをダウンロードしてください。
- ② ダムカードをスキャンすると動画が始まります。



建設中の動画に変わります

【調査設計課 馬場貴裕】

## 定礎式を終えて

12月の寒空の下、定礎式にご参加くださいました皆さま、ありがとうございました。約1年前から準備を進め精一杯取り組んでまいりました定礎式を無事開催することができ、ほっとしています。十分な配慮が行き届かなかったところは、何卒お許しください。

川上ダム建設事業にご協力いただきました全ての皆さまへの感謝の気持ちを胸に刻み、職員が力を合わせて地域の皆さまに誇れるダムを完成させる所存です。

【職員一同】

ありがとうございました！



ダムの人

【広報誌発行事務局】

|     |            |           |
|-----|------------|-----------|
| 編集長 | 淵上 (所長)    |           |
| デスク | 大西 (総務課長)  | 中野 (工務課長) |
| 記者  | 山口 (総務課)   | 西岡 (用地課)  |
|     | 子川 (調査設計課) | 小山 (環境課)  |
|     | 藤澤 (工事課)   | 後 (機械課)   |
|     | 山田 (工務課)   |           |